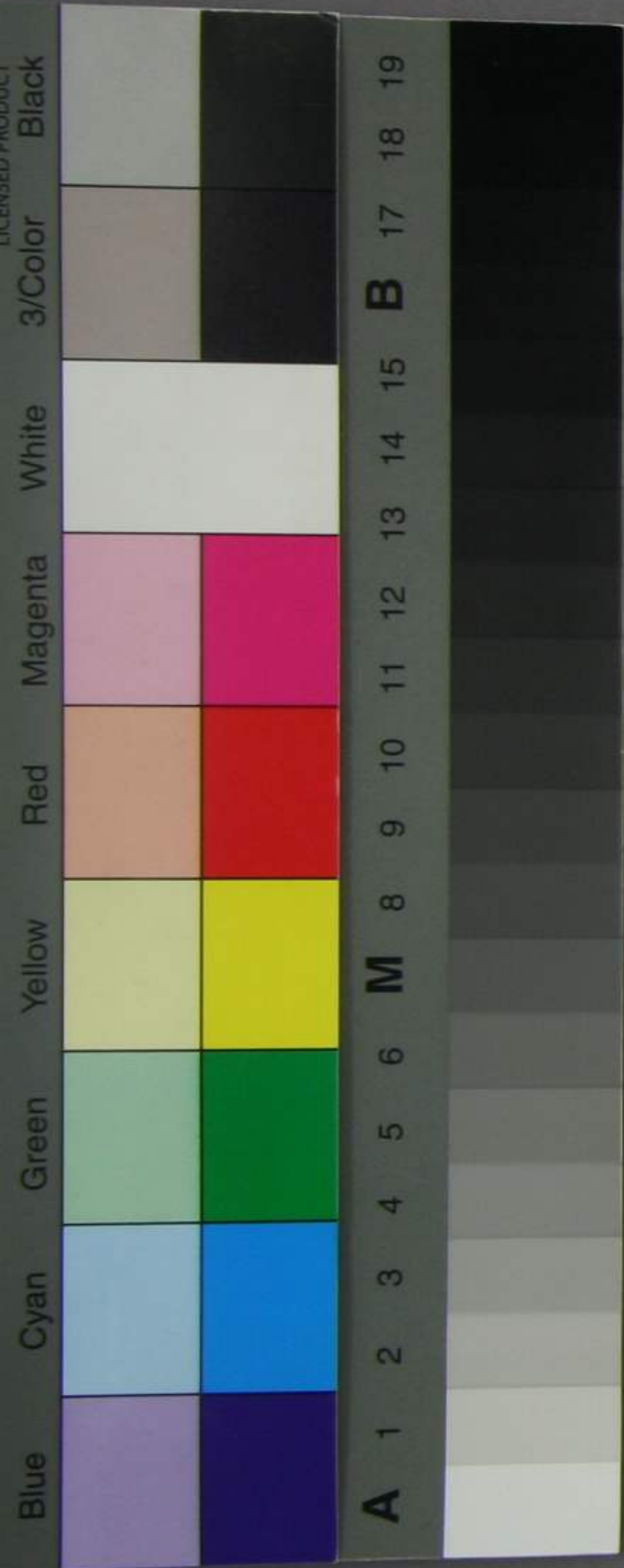


114
A2724



大正十一年四月
侯爵邸寄贈

先般神々税関に於て獨乙高人十に力
ル會社荷物陸揚差止の爲に付同會
社訴訟一件同四公使より以有るに
趣成以當省見込に應答合^成趣致承知
い右者本月十三日附を以同港税関より
申立召さる元身同港の系況は海岸廣
大にして要事多き程爲るに不^少
故昨年^二年^一は進^一の取締^一規則は後
船運世に者吉税関あり船^一毎^一に注意



少許至五里業差許東山至四港
長五里の人の中揚り日本形船敷
艘代を指し税果之免件之を得る
四港船艙に貨物搬運或を自己
貨物ヲ取替送込者日之に依り差
許至五里の時港内一般に得る
終之由高税税之弊害廉出可然
畢之免留る規則六十一條に指裁
之通日本東人各港に於る密者及
禁制之由出入ヲ防ク為至為之規律

ヲ可致之に照文日之在港内各端
之為規則ヲ設る事あり日本政府
持権ニテ異議あり之を以て且又
差押しあり多分ノ損失出ルル
右者條約附録第九則ニ趣旨之能
し当然他国との施控理成強る税
關之於降碍障之由之元來
港内碇泊之法船艙あり多分以
貨物取替送込之に業業者勿備自
己之貨物と雖日本政府に免件成不

得松送可必家... 中出... 押... 决... 越... 者... 運... 面... ら

不... 可... 多... 四... 判... 税... 係... 十... 武

船三日先、税高、船今より少、
呉くも、右等、自船、以船、言、
依る、後、書、船、寫、
中、道、也

元九、十三、
瓜生、船、税、也

杉方、船、税、控、所、也

一、号、索、船、文、と、と、と、船、税、子

此、船、税、田、ノ、船、税、カ、ス、サ、ド、ウ、
積、込、の、荷、物、ヲ、陸、揚、せ、
船、ヲ、お、
船、
の、
ベ、
中、
是、
之、

大、歳、

九 補 卷
氣ホキリ陸揚スルニ高且ク其ノ規定
ニハ況々違フ港ハ碇泊シ陸揚船
ニリ但シ物陸揚ホハ其ノ後自
可申條理其ノ必ス免許ニ解ス
運送可ク陸揚ニ必ス免許ニ解ス
ニリ其ノ後自
申先陸揚ニ其ノ後自
運送可ク陸揚ニ其ノ後自
ニリ其ノ後自
申先陸揚ニ其ノ後自
運送可ク陸揚ニ其ノ後自
ニリ其ノ後自

只云々云々此ハ及同是ハ其ノ後自
申先陸揚ニ其ノ後自
運送可ク陸揚ニ其ノ後自
ニリ其ノ後自

物運込心録多

ホウケー一書六小

暇字アラニカ

今月二日附ノ當港於ニ品物ヲ荷揚ナスニ
 然許々々外國人手私ノ揚私ニテ荷揚ホシテラ
 所迄止也事世者重々之想思云々之書有
 以事簡得之之既終夫私下格トハ甚々以觀
 政ニ在存私方ヨリ右之想思云々之東ニ系府
 任我カ公使官ニ申進也其ニ在事件ニ係
 容ニ下後者報並也者費下ヨリ之益否亦
 手之在存所有外國ノ荷私雜費日増
 得在事夕何ノ由也是ナク之由也其

杜逸國條

フヲケル貴下

乙酉八月廿三日

兵庫税関於テ招込國商人十四ヶカルニ社
 名相陸揚城等止其後同々社名此生氏
 對一其訴以招込公使トテ不歸一色中一出入
 右等一海軍軍使子回港トテ以省ハリトテ海
 波島右一併回港トテ右等トテ出入トテ
 右書款トテ送リトテ右且右招込公使トテ
 對一以海軍一色中一色中一色中一色中
 其旨至急トテ送リトテ右且右招込公使トテ
 外務省
 明治六年九月十日

大藏省總裁

大隈外務大臣

大藏省

第五十五號

以子紙致格上候然者兵庫我領事官尋申
越候越ニハ同港在留學國高ノナヒチガル會社
其船舩ヲ以テ獨逸國蒸氣カツサトメニ積込候
并物陸揚スル支運上所ノ頭瓜生氏之ヲ禁制致
候則大坂ト兵庫ノ間引船等ノ規則第七條
ニハ神戶ト大坂ノ間運送スル船ニ積込候荷物
ヲ陸揚スル日本政府ノ免許有之船舩ニ限ル

大藏省

べき様書載ラレ候ニ付況ニヤ港内碇泊イタシ
候船ノ荷物ヲ陸揚スルハ同理タルヘキ様被申聞
候然ルニ我國領事右ノ處置方ノモ理ト條約ニ背キ
候譯插ヲ以テ瓜生氏ニ論談致候ヘク同人自己新夕
ニ為行候右之仕法東京在留ノ上高ノ者ノ決定ノ來リ
候迄見合ベキ莫ヲ被断候間拙者同氏去ル一日ノ書
簡ノ寫別紙差上御閱覽被下度存候相大坂ト
神戸ノ間運送ノ儀ニ付被立候規則他港ヨリ神
戸港内へ入津イタシ候船ニ付元行ハセント右ノ通
瓜生氏年始ノ儀其心底更ニ道理相立不申事

爰ニ論ヲ不待莫ト存候蓋シ大坂ト神戸ノ間運
送ノ義ニ付被定候規則ハ東京ト横濱或ハ新瀉ト
佐渡島ノ間ト同様只其場所ノ運送丈ケニ限ル
ニ有之然ルチ一般ニ之ヲ行ハセル儀素ヨリ論シ難
且又今爰ニ瓜生氏突然相用候道理ハ右規則創
業ノ時ヨリ去ル一月一日迄貴國ノ官府之ヲ其規則
ニアルベキト一度モ述論ニ不被及候抑瓜生氏右
處置方ヲ以テ貴國ト我國ノ間被結候定約ニ附
録ノ交易規則ノ第九ヶ條ノ趣ニ背キ候事モ有
之則右ヶ條ニハ貨物ヲ積込ト陸揚ノ事ニ付議

論起ル時ハ地方官ト各國領事協議ノ上之ヲ可
為濟様ニ被書載候間右ノ通ノ困難ヲ救フヘキ
相當ナル御布達成ル丈々早ク神テノ運上所
ノ頭へ閣下ヨリ御達被下度且ナヒナル會社受
候損失瓜生氏ニ之ヲ贖ハセントスル為メ何レノ裁判
所へ可訴哉為御知被下度頼申候右之段可得
御意如此御坐候以上

獨乙國辦理公使

九月十日

フカンブラント

副島外務卿閣下

第五号寫

九月一日ノ貴翰致披見候然モ貴國高クナ
ヒナル高社多ク以テ蒸氣ハカツサントサーレヨリ
荷物陸揚可被致ノ所監吏迄テ差止候儀ニ付
云々御城合ノ趣致承知候右ハ新定約太坂兵庫
間引船等ノ規則第七條荷物積込陸揚ノ儀ハ日
本政府ニ於テ免許有之傳馬船ニ可限ト有之候
泊戸場近傍ニ滞泊ノ川蒸氣等ヨリ陸揚スルニ

尚且如此ノ規定ニ候況ニヤ港内碇泊ノ諸本船
ヨリ貨物陸揚等ハ無論本船ヲ可用條理無之
必ニス免許ノ船ニテ運送可致若ノ処同社中不心
得ヨリ差生シ候度故監吏ヨリ篤ク忠告ヲシテ候
儀ニ付ナヒナカル申立ノ通同社損金等當関
可相償筋無之候間右等得ト御了解以後此
ゴトキ所業無之様可然御通達有之度此段
及廻答候拜具

明治六年第九月一日

祖稅助瓜生 宣印

獨乙國副領事

セ、ユツチ、フナケ

貴下

大藏省



六
飛
省